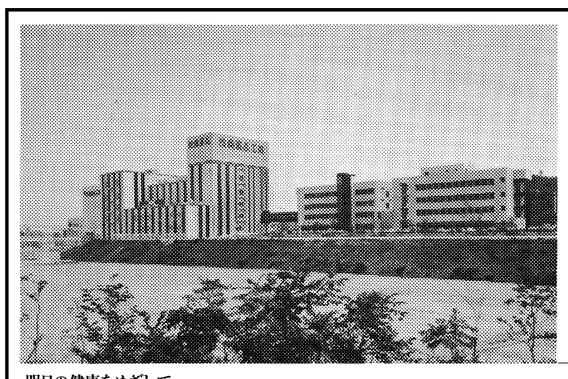
歌には、人を癒すチカラがあります。
くすりも歌のように、人を励まし、勇気づけ、
笑顔にするチカラがあります。

私たちは、くすりを通して
世界中の人々の健康に奉仕できるよう、
代謝性疾患・感染症・疼痛（とうつう）などの
疾患領域を中心に、
研究開発から製品情報の提供まで、
日々努力を続けています。

すべての人々の
クオリティ・オブ・ライフの向上をめざして。
SONG for you!　シオノギです。



点滴などの輸液や
人工腎臓用透析液でのトップメーカー

私たち扶桑薬品工業は創業以来半世紀余、治療上不可欠な医薬品のみを一筋につくり続けて参りました。その成果のひとつが、点滴としてなじみ深い輸液や、人工腎臓用透析液の分野でのトップクラスの実績となってあらわれています。

私たちは、これからもたゆむことなく、生命関連産業に携わる一員として、真摯にその本分を尽くしてまいります。

明日の健康をめざして
扶桑薬品工業株式会社
●本　　社／大阪市中央区道修町1丁目7番10号
●本社事務所／大阪市城東区森之宮2丁目3番11号　TEL（06）6969−1131（大代表）
http://www.fuso-pharm.co.jp

★★★ 注目される医薬品 ★★★

各社、新薬開発にしのぎ

開発費の高騰や標的の枯渇により新薬開発が難しいと言われるなか、日本では2013年に入って24の新有効成分が薬価収載された。糖尿病や中枢神経系など各社がしのぎを削る市場に新薬が登場した。医師に治療のあり方が変わると言わしめる新薬も多い。一方、関節リウマチ薬は抗腫瘍壊死因子（TNF）α抗体など生物学製剤が登場して10周年を迎える。13年に登場した新薬を中心に、注目される医薬品を紹介する。

糖尿病

アストラゼネカとブリストル・マイヤーズが発売した糖尿病治療薬「ビデュリオン」は週1回投与のグルカゴン様ペプチド1（GLP−1）受容体作動薬。血糖値を下げるインスリンの分泌を促し、血糖値を上げるグルカゴンの分泌を抑える。低血糖や体重増加を起こさず、週1回投与で、打ち忘れも打ち過ぎも防げる。「高齢化で糖尿病患者の服薬管理が難しくなっている。ビデュリオンは極めて重要な治療薬だ」と日本糖尿病学会理事長の門脇孝東京大学医学部付属病院長からの期待は大きい。

ノボノルディスクファーマが発売した持効型インスリン製剤「トレシーバ」は一日1回投与で24時間効果を発揮し、基礎インスリンを補う。食後に打つ超速効型と組み合わせて正常な人のインスリン分泌を再現する基礎・追加インスリン療法に使われる。トレシーバは体内に入ると6量体がつながったマルチヘキサマーを作る。この重合体からインスリンデグルデクがじわじわと放出され、1日中同じ濃度を保つ。夜寝ている間に低血糖を起こしにくい。

このトレシーバが追いかける薬がサノフィの持効型インスリン製剤「ランタス」だ。ランタスの投与管理について興味深い研究結果が発表された。投与量を患者が決めて投与する場合と医師主導で投与量を調節した場合を比べ、患者主導でも医師と変わらず血糖値を下げることができた。軽い低血糖は増えたが、重症の低血糖は変わらず0・7％と少なかった。東京医科大学病院の小田原雅人教授は「地方など病院に通うことが負担な患者さんは多い。投与量計算を守れば通院頻度を減らせる。遠隔医療など発展性が大きい」という。

日本新薬の「レグテクト」は中枢神経系に作用し飲酒欲求を抑制

アストラゼネカとブリストル・マイヤーズが発売した糖尿病治療薬「ビデュリオン」

中枢神経系疾患

中枢神経系疾患ではエーザイが「ファイコンパ」や「ゾネグラン」など抗てんかん剤に心血を注ぐ。同社はノバルティスファーマから導入した、小児の難治性てんかんのレノックス・ガストー症候群（LGS）治療薬「イノベロン」を発売した。LGSは日本での有病率が10万人に2・8人の希少疾病。発作直後に意識を失い転倒することがある。致命的なけがや事故を引き起こす危険があり、親や教師がつきっきりで介護する必要がある。イノベロンは脳内のナトリウムチャネルの活動を調整する。過剰に電荷を帯びているナトリウムチャネルを不活性化して、てんかんを抑えると考えられる。

パーキンソン病の治療はドパミン補充療法が中心だ。だが、脳でドパミンにかわるレボドパ製剤を長くを使い続けると効果が弱くなり、薬が切れて動けなくなるウェアリングオフ現象が現れる。

協和発酵キリンの発売した「ノウリアスト」はウェアリングオフの改善を狙った世界初のアデノシンA2A受容体拮抗（きっこう）薬だ。パーキンソン病は神経を抑制するドパミンと、興奮させるアデノシンのバランスが崩れて発症する。ノウリアストはアデノシンの働きを抑えて、ドパミンが減っている神経の興奮と抑制のバランスを整える。

ノバルティスファーマもウエアリングオフの改善を狙って「ELC200」の製造販売承認を申請した。レボドパと、レボドパの代謝を抑える「カルビドパ」「エンタカポン」の3種の合剤。脳まで届くようレボドパを守り、効果時間を延長する。

大日本住友製薬の「ロナセン」は、脳内の神経伝達物質を遮断することで症状を抑える非定型抗精神障害薬で、同社の注力製品の一つだ。統合失調症の治療薬として使用されている。

ドパミン−2受容体とセロトニン−2受容体に対して、強い遮断作用と高い選択性を持ち、統合失調症の原因である情報伝達系の混乱を改善する。ドパミン−2受容体に対する遮断作用のほうがセロトニン−2受容体に対する作用より強いため、幻覚・妄想などの陽性症状を抑える効果が高い。セロトニン−2受容体を抑えることで無感情や意欲低下などの陰性症状も合わせて抑える。

中枢神経系領域の変わり種は面白い。日本新薬の「レグテクト」はアルコール依存症の断酒補助剤だ。メルクセローノから導入し、日本新薬が開発して発売した。レグテクトは中枢神経系に作用し飲酒欲求を抑える。

従来の抗酒薬はアルコールの代謝を妨害し悪酔いさせ、吐き気や頭痛を強制的に起こして飲酒を思い留まらせる。レグテクトはγ−アミノ酪酸（GABA）の代わりにGABA受容体に結合し、アルコール依存症で活性化しているグルタミン酸作動性の神経活動を抑える。

くすりの中に私がいます。

新薬が世に出るまで、10年以上。
病気はそれまで待ってくれない。

中外製薬は、グローバル・ネットワークを活用し
新薬開発のスピード化をすすめています。

人生の大切な時間にくすりが間にあうように。

CHUGAI 中外製薬
Roche ロシュ グループ
http://www.chugai-pharm.co.jp/

様々な病気に打ち勝つため、
ファイザーは世界中で
新薬の研究開発に取り組んでいます。
画期的な新薬の創出に加え、
特許が切れた後も大切に
長く使われている
エスタブリッシュ医薬品を
医療の現場にお届けしています。

Pfizer　日本で60周年
Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために
ファイザー株式会社　www.pfizer.co.jp